

個性がなく覚えにくい仮名

小堀(桂): その場合、仮名よりも漢字の方が効果があるということですか。

石井 はい、そうなんです。仮名の場合は、漢字ほどのまとまった図形にならないのです。仮名で書かれた言葉は、個性がなく、みんな同じように見えるものです。たとえば幼稚園や学校の下駄箱などに仮名で名前を貼りつけていますが、自分のところがはっきり覚えられるまでに、大体一週間はかかるのが普通です。ところが、それを漢字にしますと、一目で覚えてしまいます。これは私が小学校で教えておりましたときに実験を何回もしましたが、漢字で書かれた名前はひと目でぱっとわかるのですが、仮名だとなかなか見つかりません。

小堀(桂): 私はそれと似た経験をしているのです。コンピューターか何かの関係だと思いますが、最近では学生の名簿が漢字の名簿ではなくて仮名の名簿を渡されます。ところが、仮名の名簿をもらったクラスは、どうも学生が生き生きとした人間となって浮ん

でこず、一人も覚えられないのです。

石井: それで思い出しました。ある幼稚園の園長さんが言っていたことですが、いままでは、卒業した幼児の顔が全然浮んでこなかった。ところが漢字教育をするようになって、子どもたちの名前を漢字で書くようになってから、一人一人の顔がよく覚えられるようになった、というのです。名札を見ればその子どもの顔が鮮やかに浮ぶし、子どもの顔を見ればその子の名前も思い浮ぶのだそうです。漢字教育をするようになってから、子どもとの関係が非常に良くなったと言って喜んでいました。